

広島に行って学んだこと・考えたこと

青海中学校 2年1組 長谷川 未空

1. はじめに

これまで私は、日本の歴史について深く考えることはあまりなかった。また、世界で起きている戦争について「大変だな」とは思うものの、身近なこととして捉えることはなかった。そこで、今回の研修に参加することで、広島での戦争の歴史について調べ、学び、もっと本当のことが知りたい、実際の戦争の様子を見たいと思った。

2. 学んできたこと

(1) 原爆ドーム

平和記念公園にある原爆ドームは、戦争の被害を受けてもなお残る建物である。

私が原爆ドームで驚いたことは、自分が思っていたよりも原爆ドームが大きく、全体的に壊れていた

ことである。3日目の平和記念資料館で原爆ドームの元々の建物の模型を見て、今の原爆ドームと比較すると、原爆ドームがどれだけ強く大きな力で壊れたのかよく分かった。また、爆心地から数キロ離れているのにこれだけ壊れていることに、原子爆弾の破壊力を思い知らされた。

(2) 被爆体験講話

講話者の山口さんは、原爆投下の翌月9月25日に生まれた胎内被曝者である。

私は原爆について事前に調べていたが、さらに詳しい話を直接お聞きしたことで、原爆投下後の状況を知ることができ、やはり原爆は恐ろしいものだと思った。講話の中で山口さんのお姉さんが見た、たくさんの人たちが川に飛び込んでいった光景を想像しただけで怖くなった。また、被爆者よりも胎内被曝者の方が放射線の影響を受けやすいことが分かった。そして、改めて原子爆弾などの核兵器を使ってはいけないと強く感じた。

(3) 平和記念式典

平和記念式典は毎年8月6日に原爆死没者を慰霊し、世界の恒久平和を祈念するために行われている。

私が平和記念式典に参加して考えたことは、世界の平和について目を向けることである。今までは自分の身の回りのことばかりで、世界平和について興味をもつことは少なかった。これからは自分のことだけでなく、周りにも目を向けて物事を見たり、考えたりしていきたい。

(4) 大和ミュージアム

大和ミュージアムは呉の歴史と科学技術を紹介する博物館で、特に戦艦大和が有名である。大和ミュージアムに行って、呉市の歴史や戦艦大和について学ぶことができた。呉市の海軍工場で質のよい戦艦をつくることになったため、戦艦大和がつくられた。他にも人間魚雷「回天」という魚雷に人が乗って敵に攻撃するが、乗っている人は亡くなってしまうという残酷な兵器がつくられていたことも知った。大和ミュージアムには、戦争のことだけでなく私にはまだ知らないことがたくさんあった。それ

らを知り、未来に繋ぐ必要があると実感した。

(5) とうろう流し

とうろう流しは毎年8月6日の夜に、平和記念公園の横を流れる元安川で行われる戦没者の魂を弔う行事である。私は自分でとうろうを作るのは初めてだったので、どのような平和のメッセージを書こうか戸惑った。しかし、学んできたことを生かして書き終えることができた。

私たちがとうろうを流すために元安川へ行くと、すでにたくさんの方がとうろうを持って並んでいて、こんなにも世界平和について考えている人がいることを実感した。

3. 終わりに

私は広島派遣に参加し、改めて戦争の悲惨さを感じ、戦争は絶対にしてはいけないと思った。戦後80年近く経っているのに、まだ戦争の被害で苦しんでいる人たちがいて、その人たちの話を聞いたことで、ますます戦争は恐ろしく絶対にしてはいけないと強く感じた。

平和記念式典で子ども代表の2名が、「世界平和を築くために私たちにもできることがある」と言っていた。確かにそのとおりだと思う。一人一人の力は小さいかもしれないが、できることからやっていくことが大切だと思う。これからは自分の身近にある世界平和のために「できること」を探して実行していきたい。また、家族や周りの友達にも伝えていきたい。
